

4. 噴出物中には 本質物質は含まれていない。また 粘土鉱物が多く検出された。
5. ニノ池の北縁に略東西に並ぶ 小規模な火口跡が配列しており 過去に今回のような水蒸気爆発がおこった可能性はないわけではない。山頂部火口周辺の地質調査が必要であろう。

御岳火山は 「ノーマーク」火山の1つであった。しかし「ノーマーク」で 地質調査さえ行われていない火山も 少なくない。地質情報の空白な火山をなくすとともに 人員・費用のそれほどかからない監視システムの研究も必要であろう。

以上 地質学的な面から今回の噴火についてまとめた。緊急調査は 先に述べたように 気象庁その他の機関による地球物理学・測地学および地球化学的調査・観測が実施された。ここではまったく触れなかったが それらの速報は 11月19日開催された火山噴火予知連絡会在京幹事会で報告されている。

参 考 文 献

荒牧重雄 1979 a : 1979年10月28日開始の御岳火山噴火に関するメモ 火山噴火予知連絡会資料  
 荒牧重雄 1979 b : 御岳噴火に関するメモ 火山噴火予知連絡会在京幹事会資料  
 木曾谷第四紀研究グループ 1967 : 木曾川上流部の第四紀地質 I 地球科学 第21巻 1号 1—10  
 小林国夫 1967 : 信州ロームと第四紀編年の現状 第四紀 11 3—14  
 小林国夫・小林武彦・清水英樹 1971 : 御岳火山噴出物による Tephrochronology, 「中部地方の鮮新統および最新統」竹原平一教授記念論文集 191—218  
 小林武彦 1979 : 11月 8—9 12—13日御岳山調査報告 火山噴火予知連絡会在京幹事会資料  
 小林武彦・大森江い・大森貞子 1975 : 御岳火山噴出物の化学的性質 地調月報 26巻 497—512  
 小林武彦・高木信行・藤井登美夫 1977 : 御岳火山新时期テフラ層の模式柱状図 軽石学雑誌 4号  
 町田洋・鈴木正男 1971 : 火山灰の絶対年代と第四紀後期の編



写真7 開田村恩田高原保樹休養地の駐車場 火山灰の厚さ2mm位 表面は 降雨のために固化している

年——フィッシュトラック法による試み 科学 41 263-270

Quaternary Research Group of the Kiso Valley and Kigoshi, K. 1964: Radiocarbon date of the Kisogawa-volcanic mudflows and its significance on the Wurmian chronology of Japan, Chikyu Kagaku (Earth science), no. 71, 1-7.

追 本稿の投稿後以下の論文が公表された

小林武彦 1979 a : 1979年御岳山火山活動 地球科学 33-6 表紙 ii  
 小林武彦 1979 b : 1979年御岳山の火山活動 地研そくほう 321号 4  
 田中俊寛 1979 : 御岳山噴火報告 地研そくほう 321号 5

地 質 調 査 所 の 出 版 物

- ・ 200万分の1地質編集図
  - 17 鉱床分布図
    - 5 金・銀・アンチモン・水銀・ひ素
    - 6 硫黄・硫化鉄・石膏・重晶石
- ・ 構造図
  - 5 信越地域活構造図(1:20万)
- ・ 海洋地質図
  - 13 日本海南部及び対馬海峡周辺広域海底地質図(1:100万)
- ・ 地質調査所年報 昭和53年度
- ・ 物理探査・調査研究一覽 第XXII輯(昭和53年)